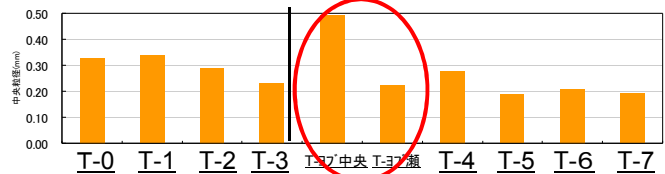
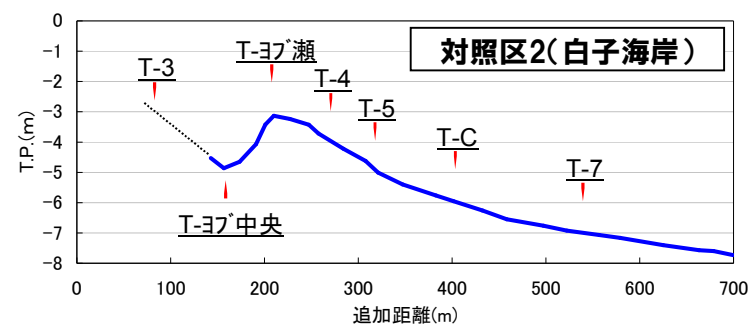
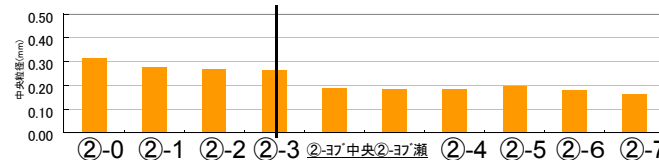
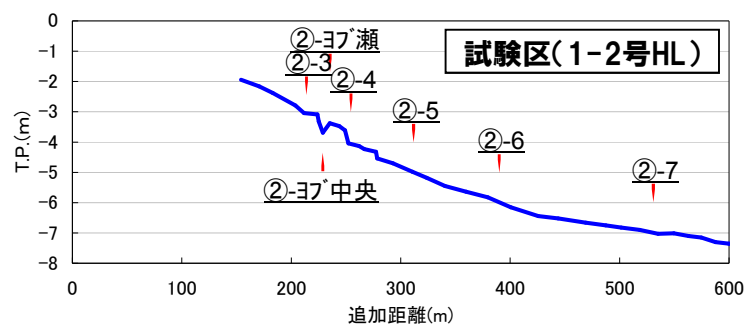
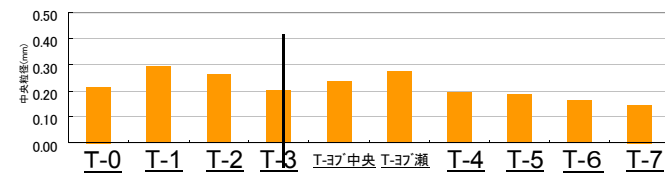
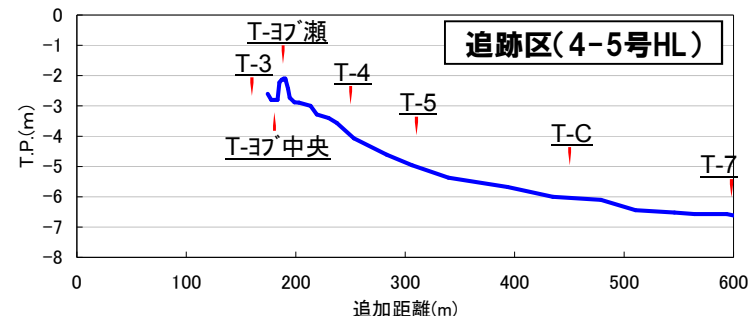
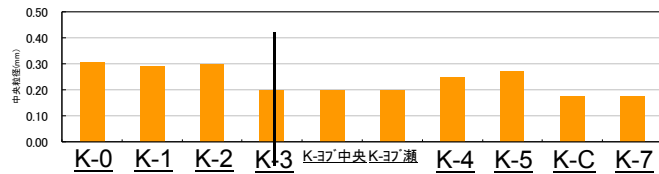
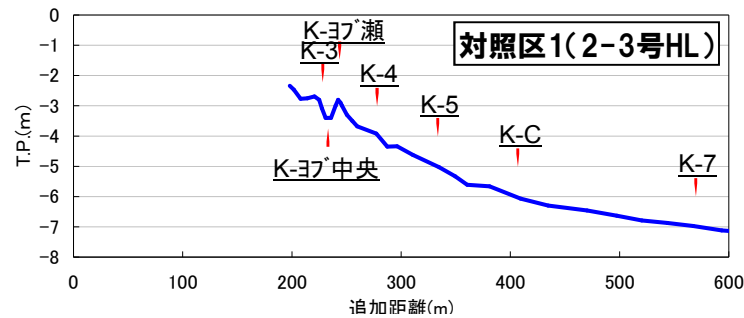


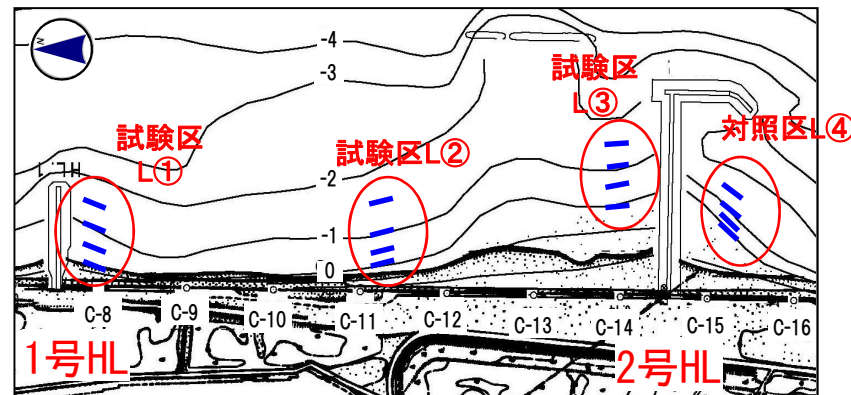
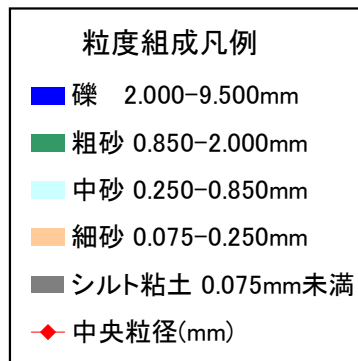
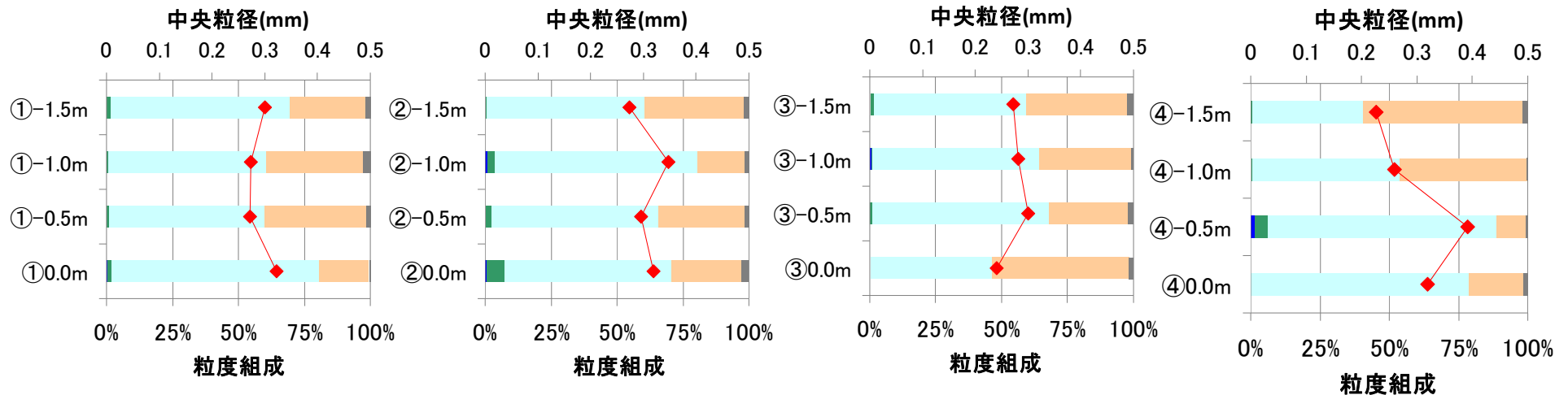
2.5 調査結果 (4) 地形と中央粒径

- ・地形については、対照区である白子海岸では、発達したSandbar、ヨブが見られたが、その他の、1-2、2-3、4-5号ヘッドランド間については、**顕著なSandbar、ヨブは見られなかった。**
- ・底質については、対照区のヨブ中央で中央粒径値が高くなっている。その他、ヨブ瀬とヨブ中央を比較するとヨブ中央の方が小さいか、または同程度となっている。



2.5 調査結果 (5) 粒度組成

- ・T. P. 0m～-1.5mの粒度組成は、全測線で、ほぼ細砂（0.075～0.25）から中砂（0.25～0.85mm）が占める。
- ・1-2号ヘッドランド間の各測線と2号堤基部の水深-0.5mでは、若干粗砂（0.85～2.00mm）、礫分（2.00mm～）が確認された。



まとめ

- チョウセンハマグリ、ダンベイキサゴの汀線部稚幼貝調査では、試験区である1-2号ヘッドランド間では、ほとんど見られない。
- 一方で、対照区である、2号ヘッドランド南側で多く観測された。
- 沖合の成貝調査においても、1-2号ヘッドランド間は生息密度が低かった。

粗粒材養浜予備試験施工 施工状況

3.1 予備試験施工の概要

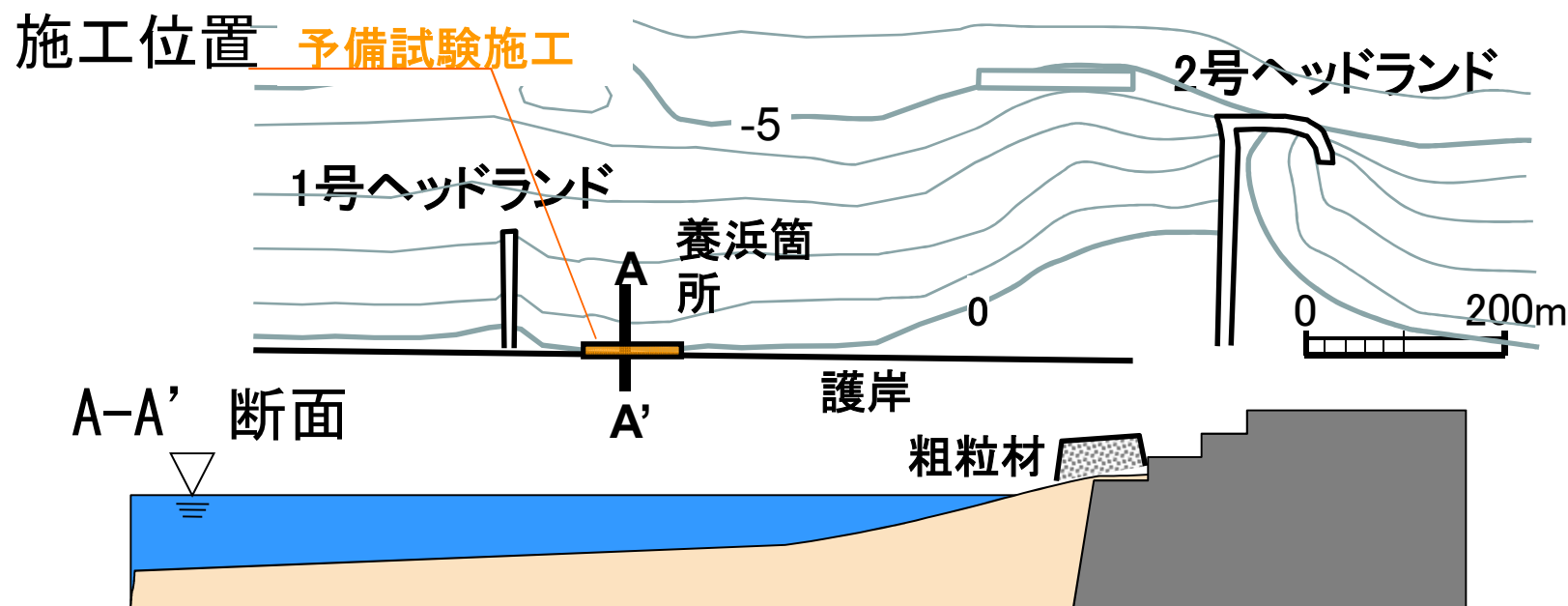
[目的] 粗粒材養浜の移動状況・生物への影響を確認する

[場所] 1-2号ヘッドランド間

[投入時期] 粗粒材運搬:2月26日～3月10日 9日間予定

海浜投入 :3月3日～ 400m³投入

[養浜材・量] 7号採石 2.5～5.0mm、500m³

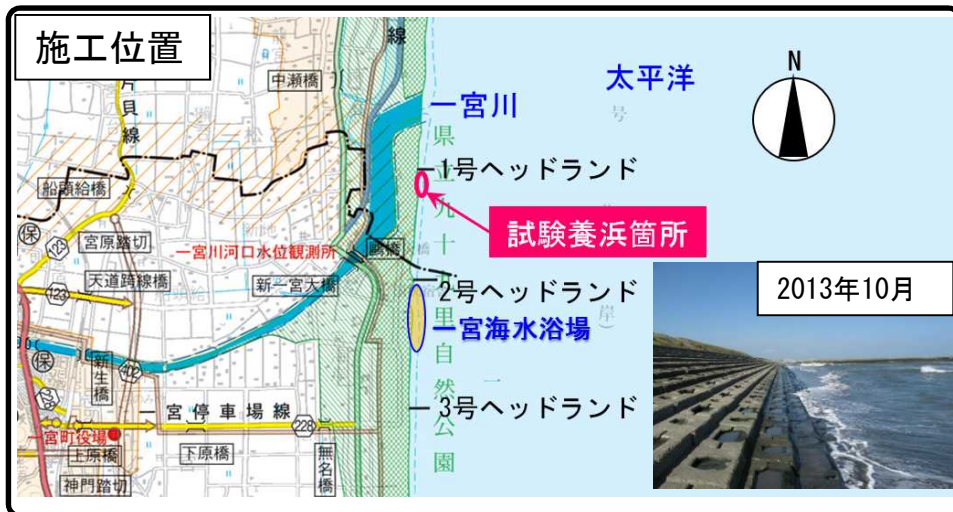


ご迷惑をおかけします。海岸の養浜*工事を実施しています。

工事期間：平成26年4月まで

一宮海岸では、近年海岸侵食が進行しており、背後地を守る護岸の防護機能の低下や、砂浜の消失が懸念されています。
このため、砂浜の復元や安定化を目的として、新たな試みである粗粒材（2.5～5.0mmの碎石）を用いた試験養浜*を行い、その効果・影響を調査しています。

※養浜とは・・・砂浜の回復や維持を目的として、人為的に海浜に砂を投入することをいいます。



養浜諸元

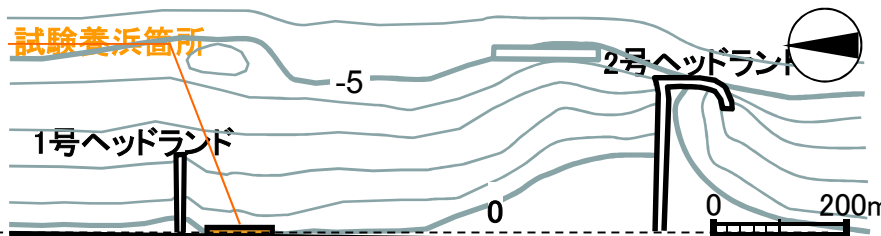
養浜量：予備試験施工 約500m³

粒径：2.5～5.0mm

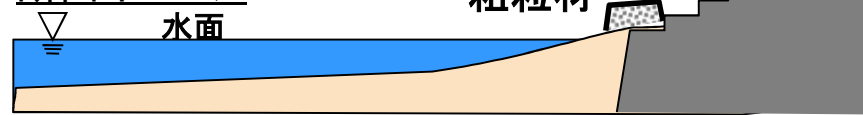
施工位置：1号堤南側

施工延長：延長100m、幅5m、高さ1m

平面イメージ



断面イメージ



問い合わせ：千葉県長生土木事務所 建設課

〒297-0026 千葉県茂原市茂原1102-1

電話：0475-24-4525

3.2 投入時の状況



粗粒材の仮置き状況

3.2 投入時の状況



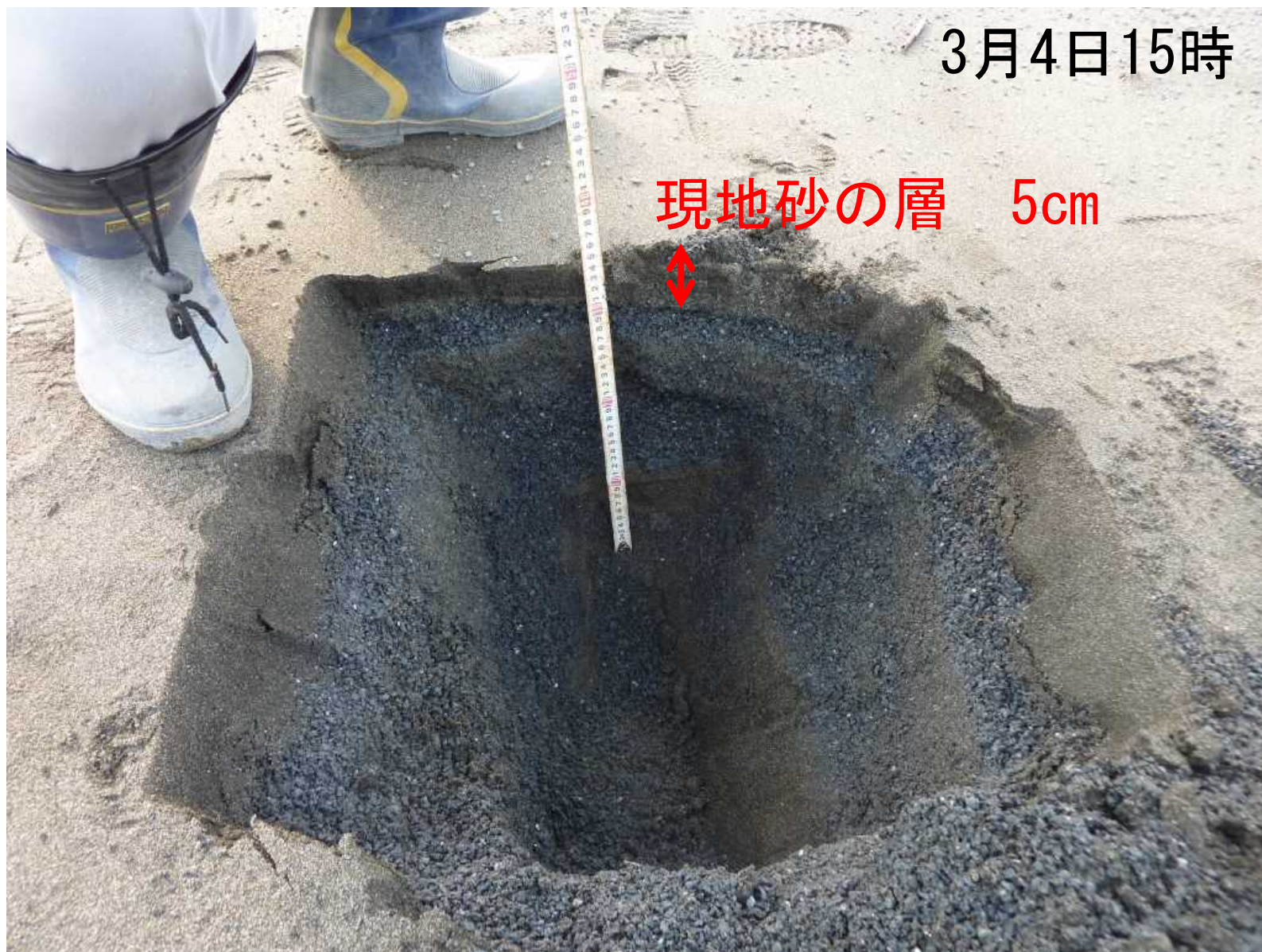
粗粒材の投入状況

3.2 投入時の状況

3月4日15時

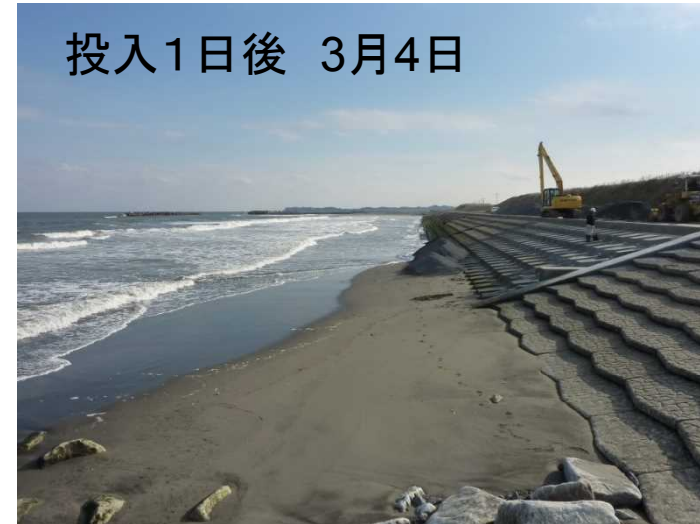


3.2 投入時の状況



3.2 投入時の状況

定点写真から見る投入移動状況



粗粒材養浜予備試験施工 事後のモニタリングについて

4.1 粗粒材養浜試験 -今後の流れ-

